

## 学術フォーラムの概要について（事後報告）

- 1 名 称：若手生命科学研究者のキャリアパスについて考える  
～ 卓越研究員制度の現状と未来、そしてさらなる可能性 ～
- 2 日本学術会議以外の共同主催団体等：
  - ・ 共催：生物科学学会連合
  - ・ 後援：日本分子生物学会
- 3 開催日時：平成28年9月12日（月） 13時00分～17時00分
- 4 開催場所：東京大学本郷キャンパス小柴ホール
- 5 開催趣旨：

1990年代後半に施行された「ポストク1万人計画」。順調に伸びたポストク数は現在1万6千人を優に超える。一方、彼らを吸収する正規雇用先は不足の一途をたどっている。この社会的葛藤ともいえる状況は学生の進路決定にも負の影響を与えており、我が国の科学技術立国としての将来には暗雲が漂う。前途に光明を見出すために我々が今とるべき戦略とは何か。新たに施行された卓越研究員制度に焦点をあてその実態を共有するとともに、若手生命科学研究者のキャリアパスについて考える。
- 6 参加人数：82名  
うち講演者等：14名（講演者等7名、スタッフ7名）
- 7 特記事項：
  - ・ メディア2社から1名ずつの参加者があった。特別な取材依頼は無かった。
  - ・ 12月に開催予定の分子生物学分科会会議にて報告すると共に、アンケート集計結果を参考資料として今後の若手生命科学研究者のキャリアパスの在り方について議論する予定である。
  - ・ 『学術の動向』 来年3月号にて特集号『若手生命科学研究者のキャリアパスについて考える』（仮題）を組む予定。
  - ・ 本フォーラムを後援していただいた日本分子生物学会のキャリアパス委員会は、卓越研究員制度に関するアンケートを9月26日に開始した。締め切りは10月11日。集計結果は日本分子生物学会年会のランチョンセミナー（キャリアパス委員会による企画）にて議論される予定。
  - ・ 当日のアンケートにて、今後もこの問題を議論するとしたら参加するか？との質問に対し、「参加する」と回答した参加者は8割弱（77%）であった。